

## 病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

## 特に注意！（10月）

## バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

## クビアカツヤカミキリ

- ・府内で発生地域が拡大しています。
- ・幼虫は、幹や枝から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。

## 野菜類・花き類

## シロイチモジヨトウ

- ・例年より発生が多いです。
- ・ねぎ、豆類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害します。
- ・発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎ、たまねぎ）、プレオフロアブル（ねぎなど）、プロフレアSC（ねぎ）などを散布しましょう。

## ハスモンヨトウ

- ・例年より発生が多いです。
- ・なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害します。
- ・発生を認めたら、ディアナSC（なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（さといも、花き類など）、プレバソフフロアブル5（キャベツ、さといも、なす、ピーマン）、プロフレアSC（キャベツ、はくさいなど）などを散布しましょう。

## アブラムシ類

- ・例年より発生が多いです。
- ・10月は例年より降水量が少なく気温が高いため、急増する可能性があります。
- ・なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害します。
- ・発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤（だいこん、キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）、コルト顆粒水和剤（キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）、トランスフォームフロアブル（だいこん、キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）を散布しましょう。



クビアカツヤカミキリのフラス



シロイチモジヨトウの卵塊※



ワタアブラムシ※

次回の情報は10月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html> (9月29日付で内容更新しました。)

**※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。**

## 病害虫の発生予報(10月)

## A 水稲

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲	ジャンボタニシ(発生に注意)				

## B 果樹類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			黒点病	ミカンハダニ	
果樹類全般	果樹カメムシ類				

## C 野菜類

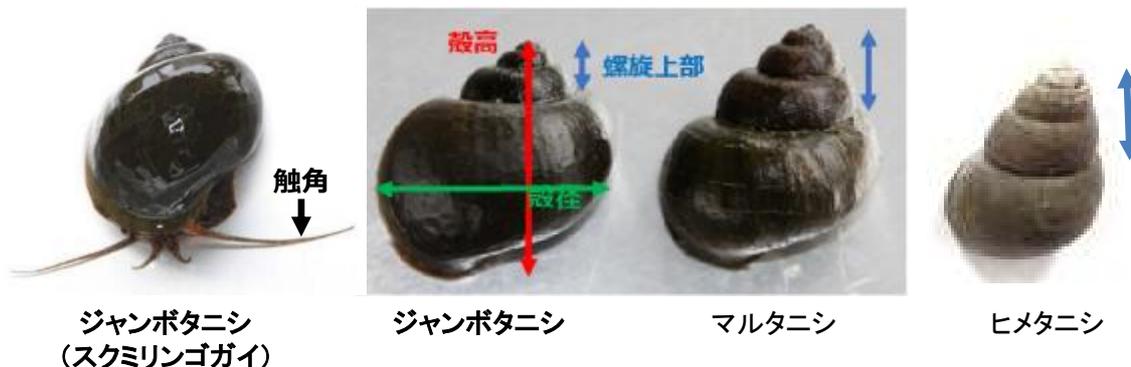
品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			褐紋病		
			アザミウマ類		
きゅうり		ウリノメイガ			
				コナジラミ類	
	退緑黄化病(発生に注意)				
			ミナミキイロ アザミウマ		
	黄化えそ病(発生に注意)				

## D 野菜・花き類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜 花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
				コナガ	
				オオタバコガ	
		アブラムシ類			

# 水稻

## ジャンボタニシ（スクミリングガイ）



ジャンボタニシ  
(スクミリングガイ)

ジャンボタニシ

マルタニシ

ヒメタニシ

### 特徴

- ◆成員の殻高は2～7cm程度。
- ◆他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。

### 防除のポイント



卵塊

- ◆刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

注) 当該項目「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

カラー技術資料「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）から稲を守りましょう！」  
についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

## 果樹

## ぶどう(収穫後の防除について)

## べと病



べと病被害葉

## 特徴

- ◆落葉の組織内で胞子の状態で越冬する。

## 防除のポイント

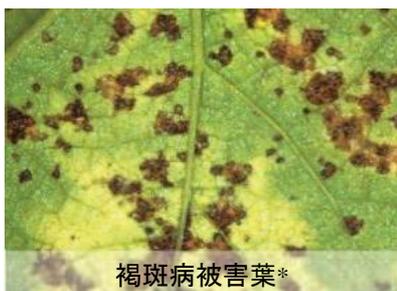
- ◆発病した葉、果実は除去し、園外に持ち出すなどして処分する。
- ◆収穫後にICボルドー66D、ICボルドー48Qなどを散布する。

令和3年5月21日発出の防除情報

「露地ぶどうのべと病に注意しましょう！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyoiyouhou/R0305bet.o.pdf>

## 褐斑病



褐斑病被害葉\*

## 特徴

- ◆発病枝や葉に付着した病原菌が越冬し、翌年、再び風雨により飛散し、感染・発病する。

## 防除のポイント

- ◆発病した葉、枯れ枝は、ほ場外へ持ち出し処分する。

## 晩腐病



晩腐病被害果※

## 特徴

- ◆病原菌は結果母枝、巻きひげなどで越冬する。

## 防除のポイント

- ◆被害果は、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆発生が多かった園では、収穫後にICボルドー66Dなどを散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

## クビアカツヤカミキリ



## 特徴

- ◆成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあり、この時期の防除が効果的。



被害枝



ネット被覆(さくら)

## 防除のポイント

- ◆フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に口をしっかりと巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切ることがあるので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ネット被覆している場合は、ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで撲殺する。
- ◆伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い、成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

令和3年5月12日の防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」についてもご参照ください。

[http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/R3rd/bouj\\_voj\\_youhou/R0305kubi\\_aka.pdf](http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/R3rd/bouj_voj_youhou/R0305kubi_aka.pdf)

## もも(収穫後の防除について)

## せん孔細菌病



せん孔細菌病発病枝(夏型枝病斑)

## 特徴

- ◆落葉痕部や枝の組織内で越冬する。

## 防除のポイント

- ◆薬剤防除の際は、事前に秋期せん定を行い、薬液がかかりやすくしてから、ムラがないように散布する。
- ◆被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆多発する場合は、9月上旬～10月上旬頃にICボルドー412などを2週間間隔で計3回散布する。

## 温州みかん

## 黒点病



黒点病被害果

## 特徴

- ◆雨が続くと発生が増加する。

## 防除のポイント

- ◆ジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤、エムダイファー水和剤などを散布する。  
注) ジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。また、かんきつ(みかんを除く)では3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

## ミカンハダニ



ミカンハダニ被害葉

## 特徴

- ◆葉に寄生して吸汁するため、吸われた部分は色が抜けて白くなる。多発すると落葉が早まる。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ダニエモンフロアブル、コロマイト水和剤などを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

## 果樹類全般

※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

## 果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

## 特徴

- ◆チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

## 防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、アディオソール乳剤(かんきつ、かきなど)、スタークル(アルパリン)顆粒水溶剤(かんきつ、かきなど)を散布する。

## 野菜

## なす

## 褐紋病



褐紋病被害葉



褐紋病被害果\*

## 特徴

- ◆葉や茎に褐色の病斑ができる。果実では褐色で円形の斑点ができ、進展すると腐敗する。さらに病状が進むと柄子殻という小さな黒点を形成する。
- ◆特に露地の水なすで発生しやすい。
- ◆梅雨時期から発生し、盛夏過ぎから被害が増える傾向にある。
- ◆病原菌は被害植物とともに土壤中に残り、次作の伝染源となる。

## 防除のポイント

- ◆ほ場内の排水や風通しを良くし、湿度を上げない。
- ◆発生を認めたら直ちに発病部位を取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆発生を認めたらベンレート水和剤、スクレアフロアブルを散布する。
- ◆被害が発生したほ場では連作を避ける。
- ◆収穫後の種取りは、褐紋病の発生していないほ場や株から行う。

令和3年8月17日の防除情報「露地なすの褐紋病に注意！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyouyouhou/R0308katsumon.pdf>

## アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

## 特徴

- ◆苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

## 防除のポイント

- ◆発生が見られたら、ディアナSC、アフーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブルなどを散布する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。
- ◆施設栽培の場合は、栽培終了後に施設内の除草を行い、2週間程度施設を密閉して蒸し込んで虫を餓死させる。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## トマト・ミニトマト(施設栽培)

## コナジラミ類



コナジラミ類成虫※



トマト黄化葉巻病発症株

## 特徴

- ◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

## 防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は、定植後の早い時期に感染すると収量への影響が大きく、株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野生えトマトの除去を徹底する。
- ◆グレーシア乳剤、コルト顆粒水和剤、トランスフォームフロアブルなどを散布する。

## すすかび病



被害葉 表(左)



裏(右)※

## 特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

## きゅうり(施設抑制栽培)

## ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)



ウリノメイガ幼虫\*

## 特徴

- ◆施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
- ◆ハウスの開口部を寒冷紗（2mm目合）等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

## 防除のポイント

- ◆生長点を食害するので、幼虫を捕殺する。
- ◆発生初期にグレーシア乳剤、ゼンターリ顆粒水和剤、アフーム乳剤などを散布して防除する。

## コナジラミ類



タバココナジラミ成虫※

## 特徴

- ◆タバココナジラミやオンシツコナジラミが加害する。
- ◆葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
- ◆タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病などのウイルスを媒介する。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、グレーシア乳剤、ベストガード水溶剤、モベントフロアブル、コルト顆粒水和剤などを散布する。

## 退緑黄化病



キュウリ退緑黄化病被害葉※

## 特徴

- ◆キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス (CCYV) によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカなどに感染する。
- ◆CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- ◆CCYVは、タバココナジラミによって媒介される。

## 防除のポイント

- ◆CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要である。

## ミナミキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ被害葉※

## 特徴

- ◆発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病などのウイルスを媒介する。

## 防除のポイント

- ◆ハウスの開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、グレーシア乳剤、アフーム乳剤、ベストガード水溶剤、モベントフロアブルなどを散布する。

## 黄化えそ病



キュウリ黄化えそ病被害葉

## 特徴

- ◆キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス (MSV) によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリに感染する。
- ◆MSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
- ◆MSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

## 防除のポイント

- ◆MSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。

## 野菜類・花き類

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。  
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

## シロイチモジヨトウ



シロイチモジヨトウ幼虫

## 特徴

- ◆ねぎでの発生が多いが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎ、たまねぎ）、プレオフロアブル（ねぎなど）、プロフレアSC（ねぎ）などを散布する。

## ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウ幼虫

## 特徴

- ◆なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害する。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ディアナSC（なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（さといも、花き類など）、プレバソフフロアブル5（キャベツ、さといも、なす、ピーマン）、プロフレアSC（キャベツ、はくさいなど）などを散布する。

令和3年6月4日の病害虫発生予察注意報第2号「ハスモンヨトウ」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/chuui/R306hasumpntyuui.pdf>

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto1.pdf>

## コナガ



コナガ成虫 ※



コナガ幼虫 ※

## 特徴

- ◆主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

## 防除のポイント

- ◆同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC（非結球あぶらな科葉菜類など）、アクセルフロアブル（非結球あぶらな科葉菜類など）、プロフレアSC（非結球あぶらな科葉菜類）などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。

(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農業を使用する際は、登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## 野菜類・花き類

## オオタバコガ



オオタバコガ幼虫

## 特徴

- ◆果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

## 防除のポイント

- ◆果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、きくなど）、プロフレアSC（キャベツ、はくさいなど）などを散布する。

## アブラムシ類



ワタアブラムシ※

## 特徴

- ◆成虫・幼虫とも葉裏に寄生して作物を吸汁し、生育を阻害する。
- ◆排泄物にカビが発生し、すす病の原因となるほか、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤（だいこん、キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）、コルト顆粒水和剤（キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）、トランスフォームフロアブル（だいこん、キャベツ、はくさい、ブロッコリーなど）などを散布する。